

平成27年12月24日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp

HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

12月中旬に降った初雪もほとんど消えてしまい、曇天が続いている新潟県魚沼地方ですが、過ごしやすい日が続いています。(雪に関わる仕事をされている方は、ヤキモキしていますが…。)

1ヶ月雪が早まったり遅くなったりすれば、数億円単位で経費削減になったり、数億円単位で売上減少になったり…。

中々丁度良い具合にはいかない様です。

平成27年も様々なことが起きました。

平成28年も引き続きよろしくお願い致します。

2014年産オランダ・フランス産百合球根

日本市場は、約3,150,000球輸入球数減少。内、当社減少分約1,750,000球。(ただし深谷地区雪害による減少が約1,250,000球。当社のみ傾向。)

A.H/L.Aは、不足気味?

O.H/O.Tは、やや過剰感あったのでは?

*フランス産は、日本全体で約6,600,000球輸入されている様子。15年産は、20%以上の増加が期待されている。

当社における実質500,000球減に対して、他業社様減少分は計算上約1,400,000球減となった様ですが、果たしてその中身は…何が減っていたのでしょうか?(在庫管理はうまくいきましたか?)

*『縮小均衡』という言葉が適正な表現で、差し障りが無いかな…と思って使っていましたが、どうやら一部の方には受けが悪いようなので言葉遣いを変えますが、経済情勢と現状の我が花卉産業・その中における百合切花の立ち位置等鑑み、『適正量流通』という言葉に置き換えます。

ところで、「適正量」ってどのくらいなのでしょうね?

*記録的に低温積算不足の球根が流通してしまった年だったと思います。

一部L.A品種は、その影響を5月中旬頃の球根出庫作型まで残していました。(もちろんO.H/O.Tも少なからず…。)

切花農家の皆様も「へんだなあ」と思った方もおられたと思いますが、まさか5月にまで影響が残っている事に気づいた方は少ないはず…。

難しい年でした

抑制作型は、まずまずだったのではないのでしょうか?

新潟県露地作型産地が苦戦しました。

8月上旬までの干ばつ・中旬以降の低温。10月/11月の温かさ・ブラックズ等の事故球を除けば、14年産オランダ産球根は、14年産フランス産球根に比べて遜色ないくらい「力の有る」年だった割に、その恩恵にあずかれなかった様です。

むしろ、フランス産のややリン付きの悪さのマイナスの方が大きかったのでは?

我が地元の JA 北魚沼では、販売方法の変更が行われ、「産地内では記録に残るであろう大失敗」という雰囲気が出ています。(昭和 30 年代に会った百合球根架空注文事件並み…。)

「もっと早くに失敗しておけばよかったのに…。」「もっと早く気が付けていたかもしれないのに…。」

来季に向けて夜も満足に眠ることが出来ないくらい悩み、失敗に対しての反省・検証・来年に向けての準備を進めております。我が社も痛みを共有いたします。

頑張ってください！！

カブラカ・ソボンヌ・シラ・イエローウィンが苦戦しています。

ソボンヌ・シラ・イエローウィンの今後については、切花市場に判断をゆだねます。

球根業社は、「良い原材料」を確保して、納品する事に徹します。

「赤と黄」ばかりにならない様、頑張りましょう！

カブラカについては…、

N.Z 産/オランダ産/フランス産開花球/オランダ産養成球、3 味一体の球根生産流通が実行されています。

どれか一つ揺れ動いても、カブラカ球根生産流通全体に影響が出てしまう状況がはっきりと確認されてきました。

日本市場以外の国では、ほとんどの切花市場において評価されていないこの品種…。

意外でしたが、国際的には個人消費の典型的市場であるドライセール市場（ホームセンター・通信販売・公園栽植用等を通して流通する、消費者が直接球根を消費してくれる市場）においては、国際的にも「カブラカ」が圧倒的に支持されていたのだという事実…。本当に意外でした。

16 年産から 18 年産、17～19 年切花流通用（開花球）、18～20 年切花流通用（養成球）

県内の関わる切花産地と、慎重に計画を進めていく事になります。

同時進行で、21 年産以降のカブラカ球根流通・その品質を改善するための作業も、既に 15 年産球根から取り組めます。(ティッシュカルチャー生産開始。)

*15 年産から取り組んで、結果が出るのが 21 年産…その時カブラカは、まだ支持され続けているのでしょうか？

初期投資だけで¥4,000,000-かかります…。ドキドキします…。

*14 年産オランダ産/国産カブラカ開花球は、前年比で 1,000,000 球内外増加して、12 年産流通水準まで戻っていました。この内、新潟県が切花増産した分は養成球から生産した分だけで、輸入開花球増加分は新潟県以外での切花生産量増加だった様です。(新潟県分については事前に市場周知していましたよね…。いくつ増えたと思います?)

オランダ産開花球の流通調整は、ここまでの所一切行われていなかったはず。関わる人間の思惑のみで動いていたという事です。

全部調べましたよ… (VOF と TYS について)。ひどいですね…。

2015 年産南半球産百合球根

納品が始まってから、極めて静かな流通状況になっているように感じます。

品質は？

まずまずという事なのでしょうか…？

岐阜の(有)養香園様・高知県農業大学校様など、いよいよ球根生産地毎の適正作型調査が本格的に行われる様です。

この事は将来どの球根産地に日本向け品種を、どの切花作型用に生産してもらうか判断する重要な試験に

なると考えています。頑張ってください。

8月末の南半球産日本向け輸出球数主要輸出業者からの聞き取り調査に対し、11月末日までの日本市場輸入球数（植防統計値）は、N.Z産についてはほとんど誤差がありませんでした（0.2%）。残念ながらC.H産については4.6%も誤差がありました。

相変わらず…業界流通在庫数に影響が出ますから、できるだけ正確な数字を申告してもらいたいものです。

2015年オランダ産/フランス産百合球根

オランダ産は作が悪いです。品質については不透明。（あまり期待できない…。）着荷後、検品いたします。

フランス産については、作況良・品質良が予測されていましたが、作況普通～やや悪い・品質良と予測が変わっています。

全体的には欠品傾向となります。

一方、世界中の球根消費は明らかに鈍化傾向を示しています。

欠品気味で丁度良い…一部の品種はもっと欠品したほうが良い。

例えばオランダ産？シラ？イローウィン？etc.

12月上旬にデンマークはコペンハーゲン経由で、オランダ出張してまいりました。（¥70,000-も飛行機賃が安い！）

デンマークのビールは高かったです。空港で飲んでも1杯¥1,250-！！（500cc）

津南の若手・地元の大手切花生産会社の長男さん、計8名での研修旅行でした。

訪問したほぼすべての会社の皆様から「今までで一番まじめだな！」とお褒めの言葉を頂きました。

自分たちの物差しで（価値観）比べるのではなく、相手の立場・目線で経営環境を見る。

そういう視点で研修に参加してくれたのは本当にありがたかったです。

P.F. Onings社バート氏には、3日間に渡りご案内いただきましたが、彼氏曰く、

「隆…1世代かかったなあ…！」という感想だそうです。

先の明かりが見えてきているでしょう！良かった！

オーナー農家の考え方・各輸出業者の考え方、それに基づく作業内容は昨年までとは明らかに変化しています。（自分が今年新たに、気付いただけなのかもしれません？）

世界各国の切花市場の見方。（彼らの目線。）

1/3近くにまで経営体数が減ってしまったオーナー農家・各社の見ている目線。

各輸出業者の考え方。

Plamv問題を輸出業者の立場で考えた時、当社が取引している会社の中で、問題に対しての意識レベルの差は尋常ではなく、大きく開いてきています。

コストコントロールと品質管理についての考え方の差…これも尋常ではありませんよ！

日本の切花農家の皆様も輸入業者の皆様も、もう本当はとっくに気が付いているはずですよ。

ダメな輸出業者と本気で考えている輸出業者がいることを…。（普及していないのは、秘密にしているだけでしょう！）

各社との付き合い方をしっかり考えながら、絶対品質・平均品質が落ちないようにしていかなければならないと思いました。

今回発行の（12月25日付）在庫表の中身はまだ一部欠品報告が反映されていない品種がある事をご承知おきください。

又、既に16年産南半球産生産品種面積の変動を意識した品ぞろえもL.Aを中心に始めています。（15年産

抑制球対応となる。)

よろしくご確認ください。

ありがとうございました。

来年もよろしくお願ひ申し上げます。



以上
森山 隆